

子どもを苦手意識から解放して！

勉強が苦手な子どもは、勉強ができないのではなく、やっていないからできないのです。なぜ勉強をやらないのでしょうか。それは、分からなくてできないからやらないのです。やってできるならやります。できない自分を他の人に見せたくないからやらないのです。

では、勉強が苦手になるのは、どこから始まるのでしょうか。それは、小学校1年生の時です。繰り上がりのたしざん、繰り下がりのひきざん、さくらんぼの計算のところですよ。でも、その前の繰り下がりのないひきざんができない子が多いのです。

そこで、100 ます計算の一行分、0から9までの数字をランダムに横に並べます。一段下の行の左に「0」を書きます。それを、足し算して、上の数字の下に足し算の答えを書きます。0をたすなんて、上と同じ数字を書けばいいだけだから簡単ですよ。1 回目のかかった時間を書き、2 回目に挑戦します。きっと、2 回目の方が速くできるようになります。これは、やり方を覚えただけでなく、集中したから速くなったのです。これを繰り返し、この一行を10秒以内にできるようにします。次に、左に書く数字を「1」にします。これも、10秒以内にできるようにします。ここで、0の時にはなかった1+9の時に、繰り上がりの計算をすることになります。次は「2」です。2+8と2+9の時に、繰り上がりの計算をすることになります。続いて「3」・・・9まで10秒以内にできるようにします。（上に並べる数字の順番をかえてもよいです。）

これで、100 ます計算の基礎ができます。100 ます計算であれば、2 分以内を目指します。こんな簡単な計算を繰り返ししても、難しい問題はできるようにはならないと思いますが、計算力、漢字力がつくだけでなく、基礎的な学習が、応用力、活用力に変わっていきますと今までの経験から言われます。同時に、大脳生理学から、読み書き計算ができると、心に落ち着きが生まれるのだそうです。

その他にも、いくつかやった方がよいことをあげて見えました。

- (1) 小学校へ入学する前に、アナログの腕時計を与え、時間間隔をもたせること
- (2) 早寝、早起き、朝ごはん、重要なことをする前には、しっかり食べること
- (3) お母さんの笑顔。お母さんがしかめっ面をしていると、子どもが不安になり、落ち着きがなくなります。おもしろいことをしている時が、一番集中します。お母さんが笑顔でいるためには、お母さんがストレスを貯めないようにすることです。

自分の子は2年生以上になっているから手遅れだと思わずに、今からでも大丈夫だそうです。

参考：テレビ寺子屋 陰山英男